

飛 翔

石川県立金沢西高等学校同窓会

〒920-0344 石川県金沢市畝田東3-526
TEL 076-268-4321/FAX 076-268-7329
URL <https://www.ishikawa-c.ed.jp/~nishih/>



NISHIKO 50 創立50周年記念号

母校の創立50周年を祝って

同窓会長 大畑 晃一

(5期生 昭和56年卒)



同窓会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より同窓会活動に対しまして、深いご理解とご協力をいただき厚く御礼申し上げます。

本年、石川県立金沢西高等学校は創立50周年の記念すべき年を迎えることとなりました。同窓生を代表し、心よりお祝いを申し上げます。次第です。

私は、1981年(昭和56年)3月に第5期生として卒業いたしました。当時はまだまだ未熟な新設校で進学先や就職先の実績も乏しく、世間からの高等学校としての評価や卒業生である私たちに對する評価は正に未知の時代でした。

今年の3月には第47期生を迎え、卒業生の数は1万6000名を超える母校となりました。1期生からの諸先輩方をはじめ、多くの卒業生が社会の様々な分野の第一線で有為な人材として活躍されています。職場における先輩や後輩、またお取引先等で同窓生と出会う機会や親子二代で同窓生といった方々も数多くいる高等学校になっています。

「協調 自主 創造 清純」の校訓のもと、先生方の熱心なご指導とご教授により育てられ巣立った私たちが、幾年が過ぎた今なお母校の名を誇りを持って言えることは誠に喜ばしい限りです。

この半世紀の歴史の中には、県庁舎移転にともなう現在地への移設がありました。当時、多くの行政側の方々のご尽力と近隣住民の皆様方の深いご理解、ご協力を賜り「金沢西」という名で存続できたこと、また新都心としてこの地域が目覚ましい発展を遂げてきた過程の中で、地域の進学校として存在感を高められたことは、今後の新たな歴史を刻んでいくうえでも大きな期待を寄せるところであります。

同窓会活動も新設校故に、第1期の卒業生が社会人として落ち着き始めた創立20周年辺りより、諸先輩方々のご尽力で組織的な活動を始めた流れとなっております。過去の周年事業を振り返ってみますと様々な形で母校と同窓生に対し寄与してまいりました。

主なところでは、学校とPTAとの三者協議による普通教室への空調設備導入工事費用に対する貸付金の拠出。40周年には同窓生が集い井上陽水さんのコンサートを観賞する記念同窓会と祝賀会の開催。また、教育現場のデジタル化推進に伴った普通教室への天井設置型プロジェクターの寄贈などです。

本年は「NISHIKO 50」をスローガンに、同窓会50周年記念祝賀会の開催と寄贈事業としては母校からの要望もあり、既設の全てのプロジェクターの更新を行います。この創立50周年を機に、同窓生の更なるネットワークの構築と魅力ある同窓会づくりを目指すとともに、今後も時代に即した母校に対する支援事業を行ってまいりたいと思います。

引き続き、同窓生の皆様方の温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

挨拶

学校長 佐藤 昌宏



同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に対し、ご理解・ご協力を賜り感謝申し上げます。令和5年度の人事異動で4月に校長として着任いたしました佐藤です。

本校は、昭和49年4月に金沢市内6番目の男女共学校として5クラス225名でスタートしました。それから半世紀の時間が経ち、今年本校は創立50周年の記念すべき年を迎えることとなりました。現在本校は、24クラス1000名に近い生徒が在籍する、県下有数の大規模校に発展拡充しております。

さて、本年5月8日より新型コロナウイルス感染症の位置付けが「5類」へ移行しました。新型コロナが普通の病気となったことで、教育活動も「有事」から「平時」へと大きく転換しました。しかし、ウイルスが消えたわけではありません。学校として基本的な感染対策は引き続き重要と考えています。3年間のコロナ禍での教育活動で「新しい生活様式」を強いられた生徒さんたちは、様々な行事の中止・縮小だけでなく、昼食時の楽しいおしゃべり、休み時間や放課後の友との語り合いやスキンシップ、部活動の制限など日常的な交流の機会が奪われてきました。しかしこれからは、感染対策を施しながらコロナ禍前の「平時」により近い教育活動へと戻していきたいと考えています。

何よりも、コロナ禍で進んだICTを活用した効率的な学びをさらに進めながら、対面によるコミュニケーションが生まれやすい環境づくりを柔軟に組み合わせていきたいと考えています。

これらを通じて生徒の皆さんがそれぞれの目標に向かってより主体的に行動することを望んでいます。進む道には道標となるような人との出会いがあり、それを大切にしてほしいと思います。大切なのは、一步前へと進もうとする姿勢です。躊躇して迷うようなことがあれば後で後悔するより、一度試しにやってみる。ためだったら引き返せば良いだけのことです。「宝島」の著者ステューブソンは「我々の目的は成功することではなく、失敗にたゆまず進むことである」と言いました。私たち職員も生徒さんのために常に一步前へ進む姿勢を取ります。

最後に、本年度も生徒の皆さんのさらなる成長と金沢西高校の発展のために、同窓会の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

創立50周年へのお祝いの言葉

さらなる飛翔を

福田 繁機

創立50周年を迎えられおめでとうございます。私は創立からの11年間とその後校長として2年間、都合13年間勤めさせていただきました。多くの思い出があります。その思い出を辿ると「♪見晴るかす広野のはてに……」のメロディーが耳奥に、時々湧き上がります。マーチ風の校歌です。

東京オリンピックのファンファーレの編曲者である須磨洋朔氏が甲子園で歌われる勝者のどの校歌よりも生えるものとして作曲したものです。卒業生諸君と肩を組みながら弾むように歌ってみたいと願っています。

生徒と先生が一丸となって素晴らしい学校を創ってきた本校は、まだまだ成長期にあると思います。半世紀の歩みをパネにして大きく羽ばたいて行って欲しと願っています。西高で一緒にできた皆様に感謝し、今後の西高を背負っていく若者たちに大きな声援を送りたいと思います。(創立時の職員・第10代校長)



創立50周年おめでとうございます 近藤 公一

私達第1期生が仮校舎である二水高校の旧理科センターに入学してから、50年(半世紀)が経ったという事なのですね。

それから、2期生、3期生と入学された皆さまのそれぞれの3年間の積み重ねがあつて長い歴史を刻むことができました。

この寄稿を書くにあたって西高の事を振り返ってみると、同窓会の顧問として学校全体の思い出も多くありましたが、第1期生として私個人の3年間の思い出がいろいろと蘇ってきました。

50年という長い歴史の中で学校自体もいろいろなことがあったのはもちろんですが、皆さまもこの機会にご自分の高校3年間の振り返ってみられるのはいかがでしょうか？

そしてこれからも入学されるそれぞれの生徒さんの3年間の積み重ねで、60年、70年、100年と西高が続いていくことをご祈念しまして、祝辞のご挨拶とさせていただきます。

(初代同窓会長・第1期生)

祝辞

石動 博一

石川県立金沢西高等学校が創立50周年を迎えられましたこと、心からお祝いとお喜びを申し上げます。

金沢西高校は、一度、県庁移転の為に、学校が無くなるかもしれないという大きな危機を迎えた事があります。しかし、開校して歴史も浅く、同窓会も力が無かった事もあり、まだ若い卒業生たちが母校の為に八方手を尽くし、努力した結果、幸いな事に現在の金沢西高校が存続する事になり、現在に至り、めでたく50周年を迎える事が出来ました。

私が移転前の金沢西高校に入学した当時は、開校して初めて、一年生から三年生まで揃い、とても新鮮な気持ちで、毎日の学校生活を送った事を良く覚えています。

卒業して、二十年経った頃に、同窓会の活動に携わり、創立40周年の折には、会長を務め、記念行事として「井上陽水コンサート」を開催させて頂きました。ある意味、奇抜なイベントを開催出来た事も、同窓会役員自体が、まだ若く、新しい発想が出来た事、それもやはり、金沢西高校の教育理念である、「清纯」「創造」「自主」「協調」の賜物であると思います。

これからも、経済界や学術、芸術、スポーツなどさまざまな分野で卒業生が活躍し、益々母校の名を高めてくれる事を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。(第3代同窓会長・第3期生)



これまでの50年とこれから

大友 恵利子

石川県立金沢西高等学校創立50周年を迎えられます慶事に心よりお祝い申し上げます。

そして、これまでに約16,000人の卒業生を送り出して下さいました母校の歴代の校長先生、諸先生方のご尽力に深く感謝申し上げます。

振り返れば、母校には流浪の歴史があります。1974年開校時の1期生は二水高校敷地内石川教育センター分室にてスタートし、期の半ばから遅れて竣工した西高校舍に入学。その後1995年頃には移転の話が浮上し、同窓会は金沢西と言う学校名を残す事、移転地は金沢西方面へお願いしたいと県に請願致しました。県の理解を得て1998年現在の立派な校舎に落ち着きました。

移転から25年が経ち、今度、創立50周年を迎えて歴史を語れる高校へと大きく発展した事に喜びを感じます。

昨今、ICT教育、SDGs、個性の多様化等の社会の変化で教育現場も急変されている事かと思えます。これから諸先生方にご尽力を賜り、創造性豊かな、社会変化に柔軟に対応する力を持つ学生達を送り出して頂けたらと願っております。

最後に、母校の発展、西高に携わって頂いている全ての皆様のご健勝を心よりお祈りし、お祝いの言葉を贈らせて頂きます。

(第4代同窓会長・第4期生)



石川県立金沢西高等学校 創立50周年記念事業のご案内

- 《日 時》 令和5年(2023年) 9月30日(土)
- 午後1時30分～ 創立50周年記念式典《在校生・職員対象》
 午後2時30分～ 記念講演会《在校生・職員対象》
 講師 桂かい枝(落語家・英語落語)
 午後6時～ 記念祝賀会《同窓生・現旧職員対象》
- 《会 場》 創立50周年記念式典 石川県立音楽堂コンサートホール
 記念講演会 石川県立音楽堂コンサートホール
 記念祝賀会 ANAクラウンプラザホテル金沢

創立50周年記念祝賀会への参加方法

- 《日 時》 令和5年(2023年) 9月30日(土) 午後6時～
- 《会 場》 ANAクラウンプラザホテル金沢
- 《その他》 祝賀会への参加方法 同封のハガキにて9月11日(月)までにお申し込みください。
 参加費は5,000円で当日受付にて頂戴いたします。



創立50周年記念事業への寄附金のお願い

母校が歴史的発展を進めようとしている今、母校の前途を祝い、その一層の飛躍を期すため、「創立50周年記念事業委員会」を結成し、上記の通り記念事業を行う運びとなりました。

つきましては、記念事業を実施するにあたり熱情溢るる同窓会員の方々の絶大なる賛助をいただき、立派にこの事業が、有終の美を飾るよう念願しております。

ついては、何かと出費でご多端の折、誠に恐縮でございますが、是非ご賛助賜りますよう切にお願い申し上げます。本事業にご賛同を頂き、ご寄附をお考えの方は、右記の2つの方式から選べます。

タイプ1 寄附金控除方式

(一定の寄附金を支払ったときの税額控除制度)

タイプ2 返礼品受取方式

(寄付額に応じて返礼品を受け取れます)

※詳しくは別紙案内をご覧ください。

母校の歩み

1974年(昭和49年度)

4月 8日 第1回入学式
(県立金沢二水高校体育館 金沢市緑が丘)



9月28日 開校式(この日を創立記念日とする)
3月20日 新校舎への移転作業

一回生という響き

ビートルズが終焉を迎え「イマジジ」がヒットチャートをかけあがり、吉田拓郎の詩が若者を席卷し、五木寛之の青春の門に共鳴、大藪春彦にしびれ、ムツゴロウの青春記を発見した青臭い少年が「一回生」という言葉を耳にしました。

カッコイイじゃないか、何でも出来るじゃないかと思ひ入学した15歳、ところを見ると聞くとは大違い。校舎もない、部活もあまりない、プールもない(水泳部志望だった)、柔剣道場もない、一時はふてくされかかっていた。

しかし時代は、アリのキンシャサの奇跡に始まり、ベッケンバウアーとクライフのW杯、赤ヘル初優勝、ユーミンのデビュー、吉田拓郎のつま恋、田中角栄の逮捕、そして私生活では、「平凡パンチ」や「プレイボーイ」が頭の上を飛び回り、ふてくされるところか、勉強する暇もない3年間でした。

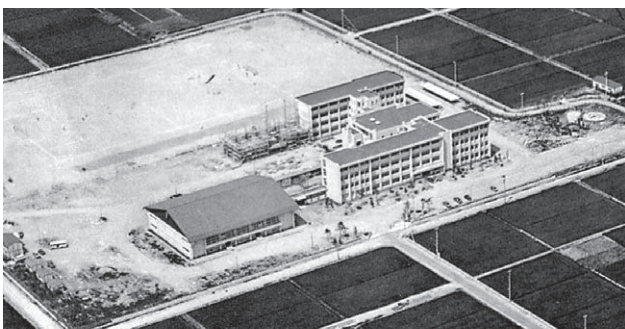
後に聴いた「行儀よく真面目なんてくそくらえっと思った」「先生あなたはかよわき大人の代弁者なのか?」ということ、いつか質問しようと思っていたら、何年かして出会った先生は「やさしい目をしていて」その笑顔を見ているうちに「僕の欲しかったものは何ですか」という叫びと共に「一回生の黒歴史」は消えてゆきました。(オフコースのサヨナラが聴こえる)

最後に私は64歳の若輩者ですが、吉田拓郎が歌った「ついてくる世代に恥じないように」「届かない世代に恥じないように」という言葉を私自身がかみしめて皆様に贈ります。

奥田 正人(第1期生)

1975年(昭和50年度)

4月 8日 第2回入学式(新校舎 金沢市藤江北)



5月30日 高校総体初参加
6月 3日 修学旅行(東北・北海道方面5泊6日)
9月30日 第1回西高祭

ひょうひょうとした越野外至雄先生

すらりと背筋が伸びて、淡々と順序立てて話す越野先生はクラス担任。数学の授業も受けていた。僕は先生の授業が終わるたび、わからないことを質問した。越野先生からは、そのたびに丁寧に答えてもらいありがたかった。その割には、数学の点数は芳しくなかった。理解したつもりでも、実際には理解していなかったんです。

卒業してからも40年以上、先生と年賀状のやりとりが続き、今年が最後となりました。フランス、パリのさらりとした風景画、先生が描いたものでした。
松尾 貞英(第2期生)

1976年(昭和51年度)

5月28日 サッカー部県総体初優勝
7月20日 西高新聞創刊
男子バレー部新人大会優勝
3月 7日 同窓会結成
3月 8日 第1回卒業式

1977年(昭和52年度)

1978年(昭和53年度)

6月 5日 県総体
(サッカー・男子バスケ優勝)
8月13日 第1回同窓会総会・祝賀会
(石川県労働会館)
9月22日 新校舎落成式・創立5周年記念式典

1979年(昭和54年度)

全国高校サッカー選手権初出場

西高への思い

西高に通った3年間、バスの便が悪かったため、雪が降る直前まで自転車通っていました。風が強い日のシベリア街道は本当に辛かった記憶があります。そして、自分が所属していた柔道部の道場はそのシベリア街道の入口付近にありました。プレハブ造の道場で畳が波打っていたのを覚えています。卒業後、地方公務員として働くことになり、縁があつて母校の事務職員として配属されました。これまでの職場とは一味違った思い入れを持って仕事をさせていただきました。もうじき、定年を迎える自分の県庁人生の中でも思い出の1ページとなりました。ありがとうございました。
加藤 晃(第6期生)

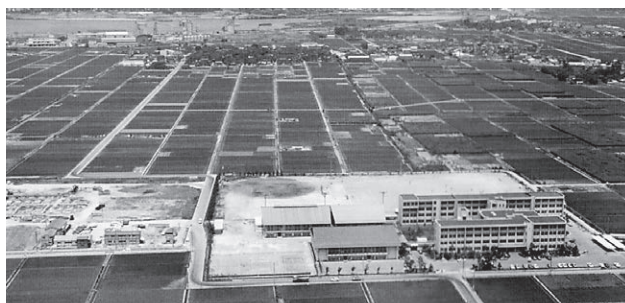
1980年(昭和55年度)

1981年(昭和56年度)

全国高校サッカー選手権ベスト16

1982年(昭和57年度)

8月 4日 第2体育館完成



1983年(昭和58年度)

9月28日 創立10周年記念式典
(記念事業:中庭整備事業に同窓会として寄付)

新保先生との出会い

私が新保先生との出会いは金沢西高校合格発表の翌日、「金沢西高校の新保やけど、明日3時にサッカー部の練習あるからグラウンドに来い」と連絡を受け練習に行ったのが初めての出会いでした。当時はテレビでしか見たことのない先生でしたので羨望していた記憶です。グラウンドでの先生は昭和のスポ魂指導で何度も何度もサッカーへの情熱が消えました…。当時の私達のチームは全国レベルにはまだまだのレベルで、全国レベルチームとの練習試合は毎回惨敗です。試合後の先生は「上位チームに勝つにはそのチームより練習するしかないんやから、今からグラウンド10周!何度も何度もこの人はオニだ、と心に叫んだ3年間でした。」 徳永 健一(第10期生)

1984年(昭和59年度)

1985年(昭和60年度)

1986年(昭和61年度)

「西高時代の思い出」

12期生として入学しましたが、縁あって1年間米留学させてもらいましたので、留年して2年生は一つ下の学年とのスタートでした。始業式、私は一人だけスリッパの色が違う知らない奴。三日間誰も口を聞いてくれませんでした。4日目の朝礼でやっと先生が「越原は留学から帰ってきたんだ」という話をしてくれて、ようやく周りから声がかかるようになりました。楽しい4年間の高校生活でしたが、あの辛い三日間は今でも夢に出て来ます。越原 寿朗(第13期生)

1987年(昭和62年度)

1988年(昭和63年度)

当時は田んぼの真ん中にポツンと校舎が建っていたので冬の吹雪の日は校舎が見えない!なんてこともありました。田んぼの中に西高と地場産と県中の病院だけでしたね。

進学校なのに2年生まではテスト前しか勉強せずに恋に遊びに夢中な高校生活でした。周りの西高生もそういう子が多かった気がします。放課後、レジャランにカラオケに行ったり、北町ジャスコの学生ラーメン食べに行ったり。3年生になると途端に受験モードになり必死に2年分の勉強を取り戻していたような笑。高校生の青春を思う存分謳歌できたバランスのいい学校だったと思います。 T(第15期生)

1989年(平成元年度)

1990年(平成2年度)

1991年(平成3年度)

空手道部県総体団体初優勝

1992年(平成4年度)

2月 5日 県庁移転に伴う本校存続の要望提出
4月 1日 普通科英語コース新設

私たちの在学時はとても自由な校風の中、のびのびと集団生活を送っていたように記憶しています。

当時の思い出は、沖縄への修学旅行や文化祭、部活動などが思い浮かびますが、その中で特に印象的なのは個性豊かな先生たちで

した。見た目はジャイアンで兄貴のような存在の櫻井晃先生、優しいルックスと英語力が光る正村泉一先生、いつも明るく元気な郡楽(ごうら)先生、独自の世界観で独創的な授業を行う細川紘関先生など、今でも多くの先生たちが記憶に残っています。

これからも個性豊かな先生の下で多くの西高生が勉強に励み果立っていくことを願っています。 大畑 裕一(第18期生)

1993年(平成5年度)

10月 2日 創立20周年記念式典
(記念事業:中庭整備『ギ・ヤード』寄贈)



1994年(平成6年度)

1995年(平成7年度)

4月 1日 65分授業開始

	65分授業	60分授業	65分授業
第1限	8:40 - 9:45	8:40 - 9:40	8:40 - 9:35
第2限	9:55 - 11:00	9:50 - 10:50	9:45 - 10:40
第3限	11:10 - 12:15	11:00 - 12:00	10:50 - 11:45
第4限	13:00 - 14:05	12:45 - 13:45	12:30 - 13:25
第5限	14:15 - 15:20	13:55 - 14:55	13:35 - 14:30

7月15日 第1回海外語学研修(英語コース)

1996年(平成8年度)

4月 1日 全日制単位制高校へ移行(英語コース廃止)

1997年(平成9年度)

1998年(平成10年度)



10月 7日 豪州テリガル高校と姉妹校提携調印

10月 8日 校舎移転改築落成式
(20周年事業『ギ・ヤード』を小型化して移設)





旧校舎解体

1999年(平成11年度)

2000年(平成12年度)

2001年(平成13年度)

2002年(平成14年度)

2003年(平成15年度)



10月4日 創立30周年記念式典・祝賀会
(記念事業:マイクロバス寄贈)

2004年(平成16年度)

2005年(平成17年度)

教室冷房整備工事
(同窓会として基金から学校に融資)



2006年(平成18年度)

4月1日 47分授業・8分休み時間制実施
(休み時間は翌年から10分に変更)

(50分授業)		(47分授業)	
朝読書	8:20 ~ 8:30	朝読書	8:20 ~ 8:30
ST	8:30 ~ 8:35	ST	8:30 ~ 8:35
第1限	8:40 ~ 9:30	第1限	8:40 ~ 9:27
第2限	9:40 ~ 10:30	第2限	9:35 ~ 10:22
第3限	10:40 ~ 11:30	第3限	10:30 ~ 11:17
第4限	11:40 ~ 12:30	第4限	11:25 ~ 12:12
予鈴	13:10	予鈴	12:50
第5限	13:15 ~ 14:05	第5限	12:55 ~ 13:42
第6限	14:15 ~ 15:05	第6限	13:50 ~ 14:37
第7限	15:15 ~ 16:05	第7限	14:45 ~ 15:32

授業終了後、朝礼・清掃



私はオーストラリアの文化を体験し、英語を勉強するためにオーストラリアに行きました。私は素晴らしい時間を過ごしました。英語だけでなく、オーストラリアと日本の生活スタイルの違いについても学びました。日常生活では、私たちは似ていますが、細かな点では少し異なります。食生活や学校生活などはそれぞれの国の伝統的な考え方に違いを発見できました。オーストラリア人と日本人の違いはたくさんあり、彼らと私たちの見た目はまったく異なります。しかし、彼らも私たちと同じ人間であり、心はまったく変わりません。
YK(第32期生)

2007年(平成19年度)

「普通の事をしては勝てない。」顧問の言葉です。
朝に走り込みを行う「朝練」や合宿では夜中に練習など、今思うと普通ではないことをたくさん耐えてきた日々を皆で過ごしてきました。そのおかげで女子バスケットボール全国ベスト8の記録、そして石川県NO.1を守り続けることができました。コーチ、顧問の方々の指導、そして親の支え、仲間たちがいたからこそ得られた結果です。その経験のおかげで今の自分があります。皆には感謝したいです。
キセキの世代(第34期生)

2008年(平成20年度)

5月6日 北信越高校野球県大会初優勝



12月26日 女子バスケ全国高校選抜ベスト8



2009年(平成21年度)

2010年(平成22年度)

2011年(平成23年度)

2012年(平成24年度)

2013年(平成25年度)

4月1日 全日制学年制高校へ回帰
9月28日 創立40周年記念式典・祝賀会
(記念事業:井上陽水コンサート)

2014年(平成26年度)

2015年(平成27年度)

2016年(平成28年度)

北の国から西高生へ

ようこそ北海道へ! 空港でこの看板を見たときに私はとても感動したことを今でも覚えています。高校2年の修学旅行は、北海道3泊4日の旅でした。飛行機で約1時間のフライト。飛行機から見た空の景色は、ジオラマのように美しく感じました。北海道に上陸し、富良野・旭川・小樽・札幌を巡りました。その中でも特に札幌ドームでプロ野球観戦した際は、全員の白熱した応援で会場を盛り上げたことは忘れません。仲間と一緒に北海道を巡り学んだ経験は一生の宝物でした。 藤田 純也(第43期生)

2017年(平成29年度)

7月 1日 同窓会40周年記念事業



(電子黒板機能プロジェクター 24基寄贈)

金沢西高校の思い出はたくさんありますが、3年生の西高祭が1番心に残っている行事です。3年生は出し物として各クラスが屋台を出店し、西高祭を盛り上げました。私たちのクラスは焼きそばとフランクフルトの屋台を出店し、狭い屋台の中で夏の暑さと鉄板の熱さで汗をかきながら焼きそばを作りました。他のクラスも様々な屋台を出店し、当時の流行の食べ物のチーズドックを出していた屋台はすごい行列がっていました。

勉強はともかく、体育の成績すら男女合わせてクラス成績最下位だった私が、なぜ創立50周年記念文集に寄稿するのか、同期の方々からしたら「なんでこの人が」となるかと思いますが、西高の先輩である「叔父」に頼まれたので仕方ありません。今思い返すと、中学時代は3年間、高校時代にはケガがあり1か月間だけでしたがバスケ部に所属し、運動は苦手ではなく、むしろ身体を動かすことは好きなほうなのに、なぜ体育の成績がいつもビリだったのか、納得がいきません。やはり持久走を真面目にやらなかったことが原因なのでしょう。 水名 奨(第43期生)

私が高校生活で最も印象に残っている思い出は部活動です。私は野球部のキャプテンをしていました。チーム自体は特に強くもなく、大会で良い成績を残せたわけではないのですが、目標に向かって仲間とともに努力した日々は、楽しい出来事も、つらかった出来事も、私にとってかけがえのない宝物となりました。指導してくださった先生方、キャプテンである私についてくれたチームメイトの皆さんには、今でも心から感謝しています。 長尾 晃次(第43期生)

2018年(平成30年度)

2月16日 第一期生同窓会(一西会)発足祝賀会



金沢西高1期生
「一西会」を設立
同窓会、定期的に
金沢西高の第1期生同窓会(本社後援)の設立総会は16日、同校で開かれ、「一西会」の名称で定期的に同窓会を開催することを決めた。今年度に還暦を迎えた1期生が約40年ぶりに集まり、結束を固めた。
会長には近藤公一 同窓会実行委員長が就いた。2年に一度、同窓会を開くとともに、社会貢献活動をしていく。総会後、ANAホリデイ・イン金沢スカイで同



乾杯して再会を喜ぶ参加者
市内のホテル

窓会が開かれ、1期生47人と恩師4人が再会し、思い出話に花を咲かせて旧交を温めた。

2019年(平成31年度)

高校時代の思い出

高校では部活動に励みました。初めて陸上に挑戦し、新しい環境、新しい仲間不安と期待でいっぱいでした。友達や先生方、家族に支えられ、棒高跳びで結果を出すことができました。棒高跳びを通じて、出来ないもどかしさや悔しさ、成長出来た時の嬉しさを味わいました。これまで私が持っていなかった、何かひとつに情熱をかけられるものに出会えたおかげで、強く成長出来たと感じます。今の自分がここまでこれたのはこの経験があったからだと思います。そして、今年度から、小さい頃からの夢だった看護師として働くこととなります。不安はありますが、また自分を信じて頑張りたいと思います。 TR(第43期生)

2020年(令和2年度)



一期一会

私の高校生活の思い出は、多くの人と出会えたということです。高校生活では様々な楽しい事、辛いことがありました。西高祭、球技大会、修学旅行など多くの思い出があります。しかし、どの場面を切り取っても友達や仲間と一緒にいる場面が思い浮かびます。楽しいことは誰かといればより楽しくなり、辛いことも一緒に乗り越えることができました。いつも近くで支えて下さった先生方、大好きな尊敬する先輩方、受験期を共に乗り越えた仲間、そして何より家族よりも多くの時間を共にすごしたであろう女バスの7人。私は高校生活で、沢山の人の人に出会い、共に過ごすことができました。全ての人の人との出会いが私にとってとても良い思い出であり、無くてはならない出会いです。これから西高が良い出会いを導きますように!! 萬澤 楓(第45期生)

2021年(令和3年度)

2022年(令和4年度)

私にとって、テスト期間などに放課後に残って友達と勉強をしたことがとても楽しかった思い出です。テストに向けて友達と教え合いながら勉強したり、疲れた時には一緒にお菓子を食べて話をしたり、先生に質問をしに職員室に行ったり、そんな何気ない時間が今思えばとても楽しかった時間だったと感じます。普段は話さない人でも、テスト期間にはみんなで協力して教え合うことがあったので、テストは好きではなかったけど、みんなで勉強できる時間が好きでした。 竹浪 みなほ(第46期生)

金沢西高校創立50周年おめでとうございます。中学と比べ知り合いの少ない環境に踏み出し、3年間通い続け、様々な挑戦を得て、最高の仲間・最高の先生の方々と出会えました。様々な活動に挑戦できる環境であることが金沢西高校の魅力であると実感しています。現在通っている生徒、これから入学し通う生徒の方々もこの高校の3年間で様々な挑戦ができ、それによってこの金沢西高校にさらなる栄光があることを願っています。 高嶋 匠(第46期生)

私の西高校での思い出は部活動である。私はフェンシング部に所属していた。1年生の全国選抜はコロナ渦により開催されなかった。緊急事態宣言中は制限も多く、開催されるかも分からない大会を目標に練習する日々は苦しかった。しかし、そんな環境であったからこそ私達の代は互いに成長出来たと思う。最後の大会であるインターハイに出場することができ、目標を実現することができた。コロナ渦という苦境を乗り越えられた仲間は一生の宝物である。 松井 こはる(第46期生)

2023年(令和5年度)

9月30日 創立50周年記念式典・祝賀会



特別寄稿

「今だから伝えておきたいこと」

高井 俊也

入学式の日には天気が良かったような気がする。高校生活の初日は、二水高校の敷地内にある3階建ての建物で始まることになる。3階の自分の教室に入ると、この先3年間をともに過ごすことになるだろう同級生が大勢座っていた。僕は、同じクラスに中学の同級生がいなかったこともあって、誰とも話すことなく、緊張しながらこれから始まる高校生活について思いを巡らせていた。

先輩がいないことについては、周囲が色々とコメントをしていたが、「人生の中でめったに巡り合わない幸運」だとか、「自分たちが歴史を作っていくんだ」という前向きな思いも、逆にこれからの不安も現実のものとしては感じてはいなかった。当然のことだが、部活動の勧誘もなければ、上級生の出迎えもなく、ただ、これから3年間が始まるんだというワクワク感と緊張感、先生方や友達との出会いを楽しみにしていただけだった。

ところが、ここで衝撃の出会いと体験をさせられることになる。自分たちが着席している机の天板にはまだ新品であることがはっきりとわかるビニールカバーがかかっていたままだった。「この学校は新しい学校だ。この学校の歴史は今日から始まる。机のビニールをはがすことが歴史の第1歩だ。」担任の自己紹介もないまま、私の高校生活は衝撃でスタートした。後で友達に確認したところ、他のクラスではそのようなことはなく、自分のクラスだけだったことが分かったが、強烈な初日を始め仮校舎での1年間は驚きの連続だった。その担任の先生と後に英語を教わることとなる英語の教師のふたりの影響で自分も教職の道を選び、担任の先生が金沢西高校の学校長の時に同じ職場で働くことができる幸運にも恵まれた。

秋には開校式と校歌の披露があった。そう言えば入学式でも校歌は歌わなかったなあ。その校歌も最初は2題目(2番)までしかなく、金沢西高校の名前が歌詞に含まれていないので、3題目(3番)を創ってもらったらやっぱり学校名が入ってなかったという落ちで終わったことは先生方もガッカリしていた。

高校2年生は藤江の新校舎—今では旧校舎というのだけ—の特別教室が割り当てられて学校生活がスタートした。普通の教室が無くても、自分たちの学校ができたことはこの上なくうれしかった。中でも修学旅行が大きな思い出となった。5泊6日の東北北海道の旅では、秋田・青森・函館・札幌・青函連絡船の5泊は忘れたいものだが、1年生の終わりに新潟県の高校に転校した友達が道中の新潟駅から酒田駅まで同じ列車に乗ってきてくれてみんなで「岬めぐり」を合唱したことも記憶の片隅にある。

良いことも悪いこともたくさんあった3年間だったが、あの入学式の日から50年の月日が流れ、50年目にも自分が立ち会えることは当時は思いもしなかったことだが、私たち第1期生は、後輩達に恥ずかしい思いをさせないように社会で懸命に生きてきて大小の差はあれど、世の中に貢献できたと信じている。 (第1期生・旧職員)

進路状況

(1) 2023年3月卒業生の進路状況

2023年3月卒業生274名の進路状況について、四年制大学が国公立大学74名(27%)、私立大学154名(56%)で合わせて228名(83%)、短期大学が5名(2%)、専門学校が27名(10%)、各種学校が2名(0.7%)、就職が1名(0.4%)、未定が11名(4%)であった。次に、進学状況を地方法別にみると、四年制大学は北海道が2名(国公立大2名)、関東が21名(国公立大4名、私立大17名)、中部が163名(国公立大62名、私立大101名)、そのうち石川県内は130名(国公立大31名、私立大99名)、近畿が34名(国公立大2名、私立大32名)、中国が4名(国公立大2名、私立大2名)、四国が2名(国公立大学2名)、九州が2名(私立大学2名)であった。短期大学は5名全員が石川県内への進学であった。専門学校等(各種学校を含む)は石川県内が23名、県外が6名であった。

(2) 2023年度入試の合格者数

既卒生を合わせた合格者数(のべ人数)について、国公立大学82(国立大40、公立大42)、私立大学691、短期大学17、専門学校等56であった。国公立大学の入試区別合格者数は学校推薦型選抜が9、一般選抜が73(前期63、中期6、後期4)であった。主な合格先は千葉大1、金沢大13、富山大16、石川県立大7、石川県立看護大6、公立小松大7であった。金沢大の合格学類は、先端1、法2、経済1、学校教育1、地域創造1、国際1、数物科1、3学類一括3、保健1、理系一括1であった。私立大学の入試区別合格者数は学校推薦型選抜が14、総合型選抜等が5、一般選抜が671であった。主な合格先は青山学院大1、東京理科大1、明治大1、同志社大2、立命館大11、関西大2、金沢工業大207、金沢星稜大173であった。

(3) 2019～2023年度入試の5年間の合格者数

2019～2023年度入試の5年間でみると、国公立大学の合格者数(のべ人数)は合計429(年度順に63, 90, 88, 106, 82)で、2022年度が106と過去最高の多さであった。難関大では、筑波大に1(2020)、東京工業大に1(2022)、国際教養大に1(2022)の合格者を出した。金沢大には合計39(年度順に4, 5, 7, 10, 13)、富山大には合計91(年度順に11, 21, 19, 24, 16)が合格した。私立大学での主な大学の合格者数は、青山学院大6、東京理科大3、明治大7、同志社大6、立命館大29、関西大8、関西学院大5、京都産業大90、龍谷大46、近畿大49、金沢工大760、金沢星稜大984であった。全私立大学合格者数に対する県内の私立大学合格者数の占める割合は、金沢星稜大28.5%、金沢工業大22.0%、北陸大9.3%、金沢学院大6.9%、金城大4.1%、北陸学院大2.5%、金沢医科大1.3%、かなざわ食マネジメント専門職大学0.1%であった。短期大学においては全短期大学合格者数に対する県内の短期大学合格者数の占める割合は84.6%であった。専門学校(看護系)においては、金沢医療センター附属金沢看護学校が合計57名と最多であり、次いで石川県立総合看護専門学校が46名であった。

皆様の安全・安心・快適な暮らしのために…



消防設備・電気設備・電気通信設備
販売・設計・施工・保守点検

株式会社 アロテック

〒920-0805 金沢市小金町4番23号 TEL(076)251-2210

<https://www.arotec-kk.com>

記念祝賀会 会場

金沢滞在を、
真の金沢体験へ。

EXPERIENCE
KANAZAWA.



ANA クラウンプラザホテル金沢は、金沢駅兼六園口より徒歩1分と絶好のロケーションを誇ります。和・洋・中・鉄板焼の4つのレストランでは、食の宝庫「金沢」らしく四季の恵みを生かしたお料理と上質のサービスでおもてなしいたします。また、1,000㎡の大宴会場をはじめ大小のご宴会場を備え、お祝いごとをはじめ様々なご会合を承っております。


ANA
CROWNE PLAZA®
AN IHG HOTEL
KANAZAWA

金沢駅 兼六園口（東口）より徒歩1分
ANAクラウンプラザホテル金沢
〒920-8518 石川県金沢市昭和町16-3





クルミのおやつ

くるくるクルミの
3時のおやつ
みんなでなかよく
めしあがれ



KURUMI
N O
OYATSU

大畑食品株式会社

「クルミのおやつ」金沢百番街あんと店



設備技術力を 追求する

地域の皆様とともに50年。

空調・給排水・防災・消雪・産業用プラントなど、

様々な設備の設計・施工を通して、快適環境をご提供しています。

Hp 北栄パイピング株式会社

〒920-0356 石川県金沢市専光寺町せ20番地2

TEL (076) 268-6317 FAX (076) 268-7784

URL <http://hp-hokuei.co.jp> E-mail info@hp-hokuei.co.jp



編集後記

母校が50年の歴史を刻み続けたことは、歴史の浅い多くの高校が統廃合によって名前が消えていったことを思えば非常に価値のある半世紀だと言えるでしょう。今回「母校の歩み」を編集するにあたり、50年の歴史も創設期の先生方と1期生の存在があってこそのもので、改めて敬意と感謝の気持ちを持つにいたしました。

全国に116校ある公立の「西高校」の一つとして16,000人超の卒業生とともに次の50年へ向けて更なる発展を誓い合いたいと思います。



石川県立
金沢西高等学校
同窓会

飛 翔

〒920-0344 石川県金沢市畝田東3-526
TEL 076-268-4321/FAX 076-268-7329
URL <https://www.ishikawa-c.ed.jp/~nishih/>

印刷・デザイン ヨシダ印刷株式会社
〒921-8546 石川県金沢市御影町19番1号
TEL 076-241-2141/FAX 076-243-4515
URL <https://www.yoshida-p.jp/>